

いつも市民の目線で!!

“山さんのホームページ”

www.k-yamasan.com

寝屋川市議会議員

山崎 きくお



平成20年10月号 (第64号)

九月定例市議会が閉会

市税条例の改正案など可決

九月八日から二九日まで寝屋川市議会「九月定例会」が開催され、市長から提案のあった条例案、補正予算案、人事案件などは、いずれも原案どおり可決されました。

また、平成一九年度会計の決算認定(六件)については閉会中の継続審査する

住民税を年金から天引き

また、市税条例の一部を改正する条例案も賛成多数で可決されました。

これは、地方税法の改正に伴って、主に次の内容を変更するものです。

- ① いわゆる「ふるさと納税制度」に関する個人市民税の寄付金控除の拡充。
- ② 来年一〇月から、満六五歳以上の公的年金から住民税を特別徴収(天引き)する。

市営住宅 駐車料を徴収

また、これまで市営

住宅の駐車場使用料を徴収していませんでしたが、府営住宅や民間駐車場との均衡の観点から、来年四月から駐車場使用料(月2500円、5000円)を徴収することが決まりました。

市営グラウンド利用料を改訂

また、来年四月から、南寝屋川公園グラウンドなどの利用料金の値上げが、次の通り決定しました。

■南寝屋川公園グラウンド

- 一時間 500円 ↓ 600円
- 南寝屋川公園テニスコート
- 一時間 400円 ↓ 500円
- 田井西公園テニスコート
- 一時間 400円 ↓ 500円

新年度職員採用試験

チャレンジ枠に3.7倍の応募

今年度の寝屋川市職員採用試験の申し込みが九月八日で締め切られました。その結果、採用予定者数

二十四人に対して三二六六(十三・六倍)の応募がありました。

また、今年から新たに設けられた「チャレンジ枠」

(社会人を対象)には四人の募集に対して一二四人(三・一倍)の応募がありました。

また、枚方寝屋川消防組合吏員の採用試験については、三四人の募集に対して二五三人(七・四倍)の応募がありました。

お知らせ
 10月24日(金)に
 池田旭町公民館で
 予定していました
 「第29回 山さんの
 ミニ市政報告会」は
 衆議員選挙が近づいて
 きたため中止します。

山さんの一般質問(要旨)



九月定例市議会では、一日〜一八日の三日間「一般質問」が行われ、三二人中二〇人の議員が市政全般にわたって市長や市理事者の考えを質しました。

私は一七日の午後から一般質問に立ち、次のような質問を行いました。(以下要旨)

一.コンプライアンス条例について

「山さんの質問」

最近、大阪市の裏金事件や大分県教委の教員採用に絡む汚職事件など、倫理観と順法意識の欠如の中で様々な事件が発生している。そして、その多くは内部告発(公益通報)によって発覚したものである。

平成一六年に内部告発をした者(公益通報者)が不利益を受けないよう「公益

通報者保護法」が制定されたが、いま各自自治体でも、職務の公正さと透明性を確保するため、独自に「コンプライアンス(規範遵守)条例」を制定する動きが出ている。本市はどのような考えでいるか。

【理事者答弁】
コンプライアンス条例の必要性については十分認識をしております。

現在、条例の早期制定に向けて内容の検討などの準備を進めているところです。

二.ごみ行政について

「山さんの質問」

今議会に「廃棄物の減量及び適正処理に関する条例」の一部改正を提案し、①ごみステーションに出された古紙古布等の所有権は寝屋川市に帰属する。

②市長が指定する者以外の者は、当該資源物を収集または運搬してはならない。
③違反した者に対し、これらの行為を行わないよう命ずることができる。
と規定しているが、命令に従わない者に対してはどのように対処するのか。

【理事者答弁】
今回の条例改正案は、まず所有権を明確にして、持ち去り業者への指導強化を目的とするものです。

市の指導命令に従わない悪徳な業者に対しては、刑事告訴も視野に入れて対処してまいります。

会派を解散しました

これまで小西順子議員と二人で「市民派『新しい風』議員団」として活動してきましたが、九月三〇日付で会派を解散しました。

私は、当分の間「無所属」で活動する予定です。

笑うために生きる

人は何のために生きているのか。これは私にとって長年の大きな宿題であった。

先日ある本に出会った。そこには作家・田辺聖子さんと亡くなった夫・川野純夫さん(カモカのおっちゃん)の会話が書かれていた。

「もう、おっちゃん居たら、いつも笑ってばかりやわ」「それで結構やないか。人間何のために生きてると思うか。笑うためやないか」

私は、これを見たときハツとした。そして咄嗟に「そうなんだ。自分はいま、みんなが笑って暮らすために生きてるんだ。家族や周りのみんなが笑って暮らすために。」と気づいた。やっとな長い間喉の奥に刺さっていた小骨が取れた感じがした。

そして、皆が笑って生きるためには、まず私自身が毎日笑って生きようと決意した。